

11月19日（火）から29日（金）は、いじめ解消・暴力根絶旬間です。自分もまわりの人も大切にできるように、学校の取組として自分のよいところを見つけ、ハートのカードに記入し、掲示しています。一人一人を大切にすることについて、どの児童にも考えを深めてほしいと思っています。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「自分もまわりも大切に～やさしさと勇気～」

学芸会は、どの学年も精一杯力を発揮して素晴らしかったです。最高の舞台を創ろうとする思い、団結、一人一人のよさが出ていて、たくさんの感動を与えてくれました。1+1は2でなく、みんなの力で何倍もエネルギーが膨らむことを感じました。温かい心、友情、六小で出会った仲間を大切に、これからも学校生活を送ってほしいと思います。

11月は、2回目のふれあい月間です。自分やまわりの人を大切に、悲しい思いや寂しい思いをする人がいないといいですね。小学4年生が書いた大丈夫という詩を紹介します。

大丈夫	大丈夫	大丈夫	大丈夫	大丈夫	大丈夫	大丈夫	大丈夫	大丈夫	大丈夫
ただの遊びだから大丈夫	バレなければ大丈夫	ふざけてるだけだから	大丈夫	言い訳すれば大丈夫	やられている方は	大丈夫じゃない	大丈夫に見えても	大丈夫じゃない	いじめに
									大丈夫は一つも通用しない

人を傷つけるとあなたの心も傷つきます。あのとき、ああすればよかったと後悔が残ります。あなたもまわりの人にも笑顔になれるように、やさしさと正しいことを行う勇気をもってください。

- 「大丈夫」の詩を聞いて、なぜか心に來ました。「大丈夫」、その油断がその後、すごいことになるよ、というけい告を出しているようにも聞こえました。いろいろな意味に解釈ができました。
- いじめを完全になくすためには、「いじめている人」「見ている人」の中の、「これくらいなら大丈夫」と言う気持ちを自らでなくすお手伝いをしてあげることが必要だと気付きました。いじめは本当に「大丈夫」なのか、今回の話で考えさせられました。
- 「大丈夫」という詩を聞いて、確かにいじめに大丈夫は一つもないと思った。やっている方は初めの内は遊び半分をやっていて、それがエスカレートしていついじめになると思うから、相手の気持ちを考えて行動することが大切だと思う。
- 「大丈夫」という詩を聞いて、私はそのとおりと思いました。詩の中に入っていた「やられている人は、大丈夫じゃない」これが私は、心に残りました。そのことを心掛けて、11月の目標を守りたいです。
- 詩が一番心に残りました。なぜなら、バレなければ大丈夫と言っているけれど、その軽い気持ちで人を傷つけているんだなと思ったからです。
- 私は、学芸会を協力して頑張りました。「1+1=2ではなく、もっと大きいかけ算になる」という言葉と、4年生が書いた「大丈夫」という詩が心に残りました。いじめは絶対にやってはいけないと思いました。やっている側もやられている側も、大丈夫はないことを知りました。
- いじめは、している人からだといじめではないと思ってしまうけれど、やられている人からだといやな気持ちになってしまう。ぼくも、いじめをしている人を見たら止めて、いじめをされている人には「大丈夫」と声をかけたいです。
- 私は、4年生が書いた詩を聞いて、いじめをして傷つかないことはないと学んだ。このクラスにはいじめがないけれど、いじめはだめだということを改めて感じた。
- いじめというのは、絶対に心に残るといふものだと思います。相手が自分に謝罪したとしても、されたことは心にずっとすみ続けて、大人になってもつらい思いをしていると思います。
- 4年生が作った詩の「大丈夫に見えても大丈夫じゃない」というのが、心にさざりました。相手にふざけていやなことをして、相手が笑っていても、心の中ではいやな気持ちだったのかな、と思った。学芸会でも、みんなやると、「○+○」は、「○×○」になるのだということを知った。
- 校長先生の話の中に、「1+1=2じゃない」という言葉がありました。私は、そのとき曲の歌詞が出てきました。その歌詞は、「1+1=2じゃなくて無限に広がり空へ放つ」という歌詞なので、校長先生が言ったとおり、「1+1=2じゃない。それに、無限に広がるんだ」と思いました。